

クリハラリス

Callosiurus erythraecus

重点定着予防種

リス科

別名：タイワンリス



環境省提供

■形態：頭胴長20～26cm、尾長17～20cm、体重300～440g。毛色には地理的変異が見られるが国内に定着しているものは、背面は黒と黄土色の毛が混じって生えている。腹面は栗色(名前の由来)。ニホンリスは腹面が白いことで区別できる。

■生息環境：常緑広葉樹林、市街地、造林地等

■原産地：台湾、中国南部～インドシナ・マレー半島等

■侵入経路：故意の放逐または動物園から逸出

■定着状況：定着不明(東部地区)

■影響・被害：樹皮剥離による樹木の枯死。未熟な種子の捕食等。人家への侵入・破壊、電線噛害等の生活被害。寄生虫の媒介。農業被害(果実類等)。在来リス科(ニホンリスなど)との競合。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 86)

■文献：②、③、④

ヌートリア

Myocastor coypus

重点対策種

ヌートリア科

別名：沼狸(しょうり)、陸獺(おかうそ)



陣内将清提供

■形態：頭胴長50～70cm、尾長30～40cm、体重6～9kg。体は茶褐色の毛に覆われる。目や耳は小さく、耳のまわりには白く長いヒゲが見られる。鼻は大きい。門歯はオレンジ色で鋭い。前足に水かきはないが、後足は水かきがある。尾は円筒状。

■生息環境：流れの穏やかな河川、湖沼、湿地等

■原産地：南米中南部

■侵入経路：毛皮用に飼育していたものの逸出・放逐

■定着状況：定着済み(県内全域)

■影響・被害：在来水生植物の食害。巣穴による堤防・水田の畦・ため池の破壊。農業被害(イネを中心にニンジン、サツマイモ、ハクサイ、大豆など様々)。在来魚類や淡水性貝類の捕食。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 89)、世界ワースト100、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

アライグマ

Procyon lotor

重点対策種

アライグマ科



環境省提供

■形態：頭胴長42～60cm、尾長20～41cm、体重4～10kg。体毛は灰褐色。目の周囲には明瞭な黒いマスク模様、尾には黒いリング状の模様をもつ。歩く際に爪先からかかとまで地面につけるため、足跡が他の哺乳類と異なる。

■生息環境：森林、湿地、市街地(人家の屋根裏や畜舎等)

■原産地：北米～中米

■侵入経路：動物飼育施設からの逸出、ペットの逸出・放逐

■定着状況：定着済み(県内全域)

■影響・被害：在来中型哺乳類との競合。在来鳥類の営巣妨害(ヒナ・卵の捕食)。在来生物の捕食。農業被害(特にトウモロコシ被害が深刻)。文化財を含む建造物への侵入・損壊。人獣共通感染症の媒介。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 83)、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

シカ属(国内産ニホンジカを除く)

重点定着予防種
シカ科

Cervus spp.



環境省提供

■形態：肩高長61～160cm、体重40～540kg。種や生息している地域などで体のサイズは異なる。黄茶色、濃茶色の体毛に覆われているが、種や生息している地域で異なる。基本的にニホンジカ(在来のシカ)と類似した形態をもつものが多い。

■生息環境：森林、草地を伴う森林等

■原産地：ユーラシア、北米

■侵入経路：動物飼育施設から逸出

■定着状況：未定着(隣県分布:なし)

■影響・被害：採食による生態系への影響。在来のシカ属との交雑。在来草食動物との競合。在来シカ類(ニホンジカ等)への感染症の拡大。

■備考：国リスト：重点対策外来種(No. 118)、世界ワースト100(アカシカが指定)

■文献：②、③、④

ガビチョウ

Garrulax canorus

重点定着予防種
ソウシチョウ科



環境省提供

■形態：全長21～24cm、体重49～75g。体は全体的に黄褐色。頭頂から後頭、喉や胸などに暗褐色の縞模様がある。腹の中央は灰色。眼のまわりから首の後ろにかけて白い模様が目立つ。くちばしは黄色で尾羽はやや黒い。

■生息環境：丘陵地、平野部の低木林、二次林、竹林、疎林等

■原産地：中国中・西・南部、ラオス北東部、ベトナム北部等

■侵入経路：愛玩用・観賞用に輸入された飼育鳥の逸出

■定着状況：未定着(隣県分布:広島)

■影響・被害：現状、国内で大きな被害は確認されていない。個体数が増加すれば、餌や営巣場所などをめぐる在来種との競争が危惧されている。

■備考：国リスト：重点対策外来種(No. 123)、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

ソウシチョウ

Leiothrix lutea

重点対策種
ソウシチョウ科



環境省提供

■形態：全長12～15.5cm、体重20～25g。大きさはスズメと同程度。体色は背が暗緑色で頭頂部は淡い緑色、目の周囲から頬にかけては淡い黄色。喉元は黄色で胸は濃いオレンジ色、翼には黄色と濃い赤の斑紋がある。くちばしは赤色。

■生息環境：落葉広葉樹林、竹林、笹藪等

■原産地：ヒマラヤ西部～ミャンマー南西部・北東部等

■侵入経路：飼育鳥及び商業用に飼育されていた個体の逸出

■定着状況：定着済み(県内全域)

■影響・被害：近年の爆発的な個体数の増加により在来種(メジロ、コマドリ、コルリ、ウグイスなど)に影響を与えている可能性が示唆されている。

■備考：国リスト：重点対策外来種(No. 126)、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

アカミミガメ

Trachemys scripta

重点対策種

ヌマガメ科

別名：ミドリガメ



環境省提供

■形態：最大背甲長は雄で20cm、雌で28cm。体重は背甲長20cmの雌で1.4kg前後。甲はゆるやかなドーム状。背甲には弱い1本の隆条があり、背甲の後縁には弱い鋸歯がある。頭部両側の橙赤色の斑紋が特徴的(名前の由来)。

■生息環境：ため池、池沼、湿地、水路、河川等

■原産地：北米

■侵入経路：愛玩用に輸入されたものの遺棄

■定着状況：定着済み(八頭地区以外)、定着不明(八頭地区)

■影響・被害：在来淡水カメ類との競合。在来生物の捕食(水草をはじめ、様々な動植物を捕食)。サルモネラ菌の媒介。農業被害(ハス、ジュンサイ、ヒシの食害等)。

■備考：条件付特定外来生物、国リスト：緊急対策外来種(No. 93)、世界ワースト100、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

カミツキガメ

Chelydra serpentina

重点定着予防種

カミツキガメ科

別名：コムンスナッパー



環境省提供

■形態：最大背甲長50cm。体重は最大で34kg。頭部は大きく、背甲は褐色またはオリーブ色で3本の隆条がある。背甲の後縁は鋸歯状。四肢は強靱で鋭い爪をもつ。在来のカメ類とは、尾の上部に大型の鱗が並ぶこと、腹甲が小さいことなどで区別可能。

■生息環境：池沼、湿地、水路、河川等

■原産地：北米～南米

■侵入経路：愛玩用に輸入されたものの遺棄

■定着状況：定着不明(東部地区)

■影響・被害：在来生物の捕食(様々な動植物を捕食)。在来淡水カメ類との競合。漁具の損壊。ヒトへの咬傷(特に陸に上げられた個体は攻撃的になる)。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 92)、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

外来オオサンショウウオ(在来種との交雑個体も含む)

Andrias spp. (*Andrias japonicus* を除く)

重点定着予防種

オオサンショウウオ科



(株)エスジーズ提供

■形態：大型の個体は全長1m以上。体重10kg以上。主に中国由来のオオサンショウウオとその交雑個体を指す。形態は在来のオオサンショウウオに似る。中国由来の種は在来種と比較して頭部・下顎のイボが小さい傾向にある。一方で交雑種は識別が困難。

■生息環境：河川の中流部、内陸の湿地等

■原産地：中国等

■侵入経路：食用個体の遺棄・逸出

■定着状況：未定着(隣県分布:岡山、広島)

■影響・被害：在来オオサンショウウオとの交雑による遺伝的攪乱。在来オオサンショウウオとの競合・駆逐。その他在来生物の捕食。

■備考：国リスト：重点対策外来種^{*}(No. 128) ※チュウゴクオオサンショウウオが指定

■文献：②、③、④

ウシガエル

Rana catesbeiana(*Lithobates catesbeianus*)

重点対策種

アカガエル科

別名：食用ガエル



環境省提供

■形態：体長11～18cm、体重139～183g。在来のカエル類と比較して大型で後肢の水かきが発達している。鼓膜が大きく明瞭で、直径は眼の0.9～1.7倍になる。雄の成体の喉は黄色くなる。幼体は体に黒い斑点をもつ。

■生息環境：湖沼、ため池、流れの穏やかな河川・水路等

■原産地：北米

■侵入経路：食用目的の放流

■定着状況：定着済み(日野地区以外)

■影響・被害：在来生物の捕食(様々な生物を捕食するが特に水生昆虫の被害が大きい)。在来カエル類(トノサマガエル、ダルマガエル等)との競合。

■備考：国リスト：重点対策外来種(No. 129)、世界ワースト100、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

ガー科

Lepisosteidae Gen. spp.

その他の予防種

ガー科

別名：ガーパイク、ガー



滋賀県立琵琶湖博物館提供

■形態：全長は種によって異なる。ガー科の中でも有名なアリゲーターガーの場合は最大3mに達する。体は細長い円筒状で厚い鱗に覆われている。基本どの種も吻(ふん)が長く尖っている。アリゲーターガーの場合はやや短く、顔がワニに似る。

■生息環境：湖沼、河川、城の濠等

■原産地：中央アメリカ～北米、カナダ

■侵入経路：観賞用に飼育されていた個体の遺棄

■定着状況：未定着(隣県分布：岡山)

■影響・被害：在来魚類や甲殻類の捕食が危惧される(アリゲーターガーの場合は水鳥を捕食した例もある)。人への咬傷等。

■備考：国リスト：その他の定着予防外来種(No. 54)

■文献：①、②、③、④

チャネルキャットフィッシュ

Ictalurus punctatus

重点定着予防種

アメリカナマズ科

別名：アメリカナマズ



滋賀県立琵琶湖博物館提供

■形態：全長は最大で130cm。体は細長く、頭部は縦扁し腹びれより後方は側扁している。ヒゲは4対8本。背びれと胸びれには鋭い棘があり、尾びれは深く切れ込む。成魚の体色は背部が濃い灰色～オリーブ色で腹部が白色。

■生息環境：湖沼、河川の下流域等

■原産地：アメリカ、カナダ南部、メキシコ北部

■侵入経路：養殖用や観賞用に輸入された個体の逸出

■定着状況：未定着(隣県分布：なし)

■影響・被害：在来魚類・甲殻類・昆虫類等の捕食。漁業被害(定置網内での漁獲物の横取りなど)。ひれにある鋭い棘による刺傷被害。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 98)

■文献：①、②、③、④

カダヤシ

Gambusia affinis

重点定着予防種

カダヤシ科

別名：タップミノー



滋賀県立琵琶湖博物館提供

■形態：体長は雌5cm、雄3cm。基本的に雌は雄より体が大きい。雄の尻びれは棒状の交接器になっている。メダカ類に似るが、メダカ類と比較して体が青っぽい点や尾びれの縁が丸い点、尻びれの基部が短い点等で区別できる。

■生息環境：湖沼、水田、流れの緩い河川下流や水路等

■原産地：アメリカ南東部

■侵入経路：ポウフラ駆除のために日本各地に放流

■定着状況：未定着(隣県分布:兵庫、岡山、広島)

■影響・被害：在来のメダカ類との競合(メダカ類よりも攻撃性が強く、関東地方や沖縄では小河川や水路の本種がメダカ類と置き換わっている場所もある)。メダカ類の仔魚・稚魚の捕食。

■備考：国リスト：重点対策外来種(No. 132)、世界ワースト100、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

ブルーギル

Lepomis macrochirus

重点対策種

サンフィッシュ科



環境省提供

■形態：全長25～30cm。幼魚は体高が低く、体には7～10本の暗色横帯がある。成長するにつれて体高が高くなる。また、体色が暗褐色に変色し横帯はやや不明瞭になる。鰓蓋の後端には濃紺または黒の暗色斑がある。

■生息環境：湖沼、ため池、流れの緩やかな河川等

■原産地：カナダ南部、アメリカ中東部、メキシコ北部

■侵入経路：人為的な放流

■定着状況：定着済み(日野地区以外)

■影響・被害：在来の水生生物全般の捕食(雑食性で魚類、動物プランクトン、昆虫類、貝類、植物などを幅広く捕食する)。水産有用種の食害。漁業操業に支障を招く大量の混獲。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 99)、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

オオクチバス

Micropterus salmoides

重点対策種

サンフィッシュ科

別名：ブラックバス



環境省提供

■形態：全長30～50cm。体形はスズキ型。上顎の後端が眼の後縁の直下よりも後方に達する。背びれの軟条部と棘条部はわずかにつながる。体の側面には不明瞭な1本の黒い縦帯が入る。側線鱗の枚数は59～68枚。

■生息環境：湖沼、ため池、河川の中～下流域等

■原産地：カナダ南部、アメリカ中東部、メキシコ北部

■侵入経路：釣りの対象や食用として全国に放流

■定着状況：定着済み(県内全域)

■影響・被害：魚類を中心とした様々な在来水生生物の捕食。在来魚類との競合・駆逐。水産有用種の食害。漁業の操業に支障を招く大量の混獲。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 101)、世界ワースト100、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

コクチバス

Micropterus dolomieu

重点対策種

サンフィッシュ科

別名：ブラックバス



環境省提供

■形態：全長30～50cm。体形はスズキ型。上顎の後端は眼の中央より前方にある。背びれの軟条部と棘条部は明確につながる。オオクチバスに似るが口が小さい点や背びれの形状、体側の模様が異なる点で区別できる。

■生息環境：湖沼、河川の中～上流域等

■原産地：カナダ南部、アメリカ中東部

■侵入経路：主に釣りの対象として日本各地で放流

■定着状況：定着済み(東部地区)

■影響・被害：魚類を中心とした様々な在来水生生物の捕食。在来魚類との競合・駆逐。水産有用種の食害。漁業の操業に支障を招く大量の混獲。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 100)、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

クビアカツヤカミキリ

Aromia bungii

重点定着予防種

カミキリムシ科

別名：クロジャコウカミキリ



野中俊文提供

■形態：体長25～40mm。体は全体的に黒色で光沢(ツヤ)がある。胸部の背面のみ明るい赤色(名前の由来)になっている。胸部の側面には頑丈なとげ状のコブを一对もつ。触覚の長さは体長と同程度か、もしくはやや長い。

■生息環境：公園、市街地の街路樹(バラ科)等

■原産地：中国、朝鮮半島、台湾、ベトナム北部等

■侵入経路：輸入された木材等に穿孔・随伴して侵入

■定着状況：未定着(隣県分布：兵庫)

■影響・被害：幼虫がサクラ、ウメ、カキ、モモなどの樹木に寄生し、枯死の原因となる。これにより、農作物被害や景観破壊が問題となっている。また、倒木等による人的被害も危惧されている。

■備考：国リスト：その他の総合対策外来種(No. 179)

■文献：①、②、③、④

ツヤハダゴマダラカミキリ

Anoplophora glabripennis

重点定着予防種

カミキリムシ科



西浦理江提供

■形態：体長20～35mm。体は全体的に光沢(ツヤ)のある黒色で、上翅に白色～黄色の斑紋を有する。触角は雄で体長の1.5倍程度、雌で1.3倍程度。在来の同属種ゴマダラカミキリに類似するが上翅の基部全体に顆粒状点刻を有しないことで区別できる。

■生息環境：植林地、果樹園、街路樹等

■原産地：中国、朝鮮半島北部

■侵入経路：輸入された木材等に穿孔・随伴して侵入

■定着状況：未定着(隣県分布：兵庫)

■影響・被害：幼虫がカエデ、リンゴ、サクラ、ナシ、ヤナギなど様々な樹種に寄生し、枯死の原因となる。これによる農作物被害や景観破壊が危惧されている。

■備考：国リスト：指定なし、世界ワースト100

■文献：①、③、④

ヒアリ

Solenopsis invicta

重点定着予防種

アリ科

別名：アカヒアリ



■形態：体長は働きアリで2.5～6mm、女王アリで8mm程度。頭部、腹柄節は暗赤色、腹部は黒褐色。腹柄は2節で前伸腹節に棘はない。触角は10節。アカカミアリに似るが、触角付け根の下部中央に突起がある点で区別できる。

■生息環境：草地等の開けた空間(ドーム状のアリ塚を形成)

■原産地：南米

■侵入経路：貨物等に随伴して侵入

■定着状況：未定着(隣県分布：なし)

■影響・被害：他の在来アリ類との競合・駆逐。本種の攻撃による在来の節足動物、両生類、爬虫類、小型哺乳類の減少。人や家畜への刺咬被害(最悪の場合、アナフィラキシーショックにより死に至る)。

■備考：国リスト：侵入予防外来種(No. 12)、世界ワースト100

■文献：①、②、③、④

アカカミアリ

Solenopsis geminata

重点定着予防種

アリ科

別名：ネッタヒアリ



■形態：体長は働きアリで3～5mm、女王アリで7～8mm程度。頭部と腹部第1節は橙黄色で腹部の第2節以降は褐色。働きアリの頭部は大型かつ四角形状。触角は10節。ヒアリに似るが、触角付け根の下部中央に突起がない点で区別できる。

■生息環境：草地等の開けた空間

■原産地：北米南部～中南米

■侵入経路：米軍物資の輸送に随伴して侵入

■定着状況：未定着(隣県分布：なし)

■影響・被害：他の在来アリ類との競合・駆逐。在来生態系への影響。人や家畜への刺咬被害(人の死亡例は報告されていない)。カイガラムシ類との共生による農業被害。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 103)

■文献：①、②、④

コカミアリ

Wasmannia auropunctata

重点定着予防種

アリ科

別名：チビヒアリ



■形態：体長は働きアリで1～2mm、女王アリで4.5mm程度。体色は全体的に赤褐色。腹部はしばしば暗色。女王アリは働きアリと比較して暗色になる。触角は11節。腹柄は2節で第1節が四角形に突出するのが特徴。

■生息環境：森林、瘦地、農耕地等

■原産地：中南米

■侵入経路：貨物等に随伴して侵入

■定着状況：未定着(隣県分布：なし)

■影響・被害：他の在来アリ類との競合・駆逐。在来生態系への影響。人や家畜への刺咬被害(刺されると激しい痛みを襲われる)。カイガラムシ類との共生による農業被害。

■備考：国リスト：侵入予防外来種(No. 13)、世界ワースト100

■文献：②、③、④

アルゼンチンアリ

Linepithema humile

重点定着予防種
アリ科



環境省提供

■形態：体長は働きアリで2.5～4mm、女王アリで5mm程度。体色は全体的に黒褐色。体形は他のアリをと比較して細長く、触角は長い。複眼はやや大きい。日本に同属種は生息しておらず、触角や体形、体色等で他のアリ類と区別できる。

■生息環境：港湾や住宅地等の人工的な環境

■原産地：南米

■侵入経路：建築資材等の物資に随伴して侵入

■定着状況：定着不明(東部地区、西部地区)

■影響・被害：他の在来アリ類との競合・駆逐。その他、在来生態系への影響。人の日常生活への障害(住宅に侵入し食品に群がる等)。アブラムシ類、カイガラムシ類の保護による農業被害。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 102)、世界ワースト100、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

ハヤトゲフシアリ

Lepisiota frauenfeldi

重点定着予防種
アリ科



写真なし

■形態：体長は働きアリで2.5mm～4mm、女王アリで6mm程度。体色は頭胸部が暗赤色で、腹部は黒い。中胸部は細くくびれる。腰のくびれの背面に一对の刺状突起を持つ。触角が長い点等で同属の他種と区別できる。

■生息環境：乾燥した裸地や街路、日本においては港湾等

■原産地：南ヨーロッパ

■侵入経路：貨物等に随伴して侵入

■定着状況：未定着(隣県分布：兵庫)

■影響・被害：他の在来アリ類との競合・駆逐。その他、在来生態系への影響。人の日常生活への障害(住宅に侵入し食品に群がる等)。アブラムシ類、カイガラムシ類の保護による農業被害。

■備考：国リスト：指定なし

■文献：①、③、④

ツマアカスズメバチ

Vespa velutina

重点定着予防種
スズメバチ科



環境省提供

■形態：体長は働きバチで20～23mm、女王バチで23mm～30mm、雄バチで20～25mm程度。スズメバチの中では中型。体色は他のスズメバチと比較して全体的に黒っぽい。腹部の先端が赤褐色。体色と腹部の先端の色等で他のスズメバチと区別できる。

■生息環境：森林、農耕地、住宅地、都市部等

■原産地：南アジア～東南アジア～中国南部

■侵入経路：不明

■定着状況：未定着(隣県分布：なし)

■影響・被害：他の在来スズメバチ類との競合。その他、在来生態系への影響。人への刺傷被害(マンションの壁や電柱に営巣することもある)。養蜂業への被害(ミツバチを捕食するため)。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 104)

■文献：②、③、④

セイヨウオオマルハナバチ

Bombus terrestris

産業管理種
ミツバチ科

別名：ツチマルハナバチ



環境省提供

■形態：体長は働きバチで10～18mm、女王バチで18～23mm、雄バチで14～20mm程度。全身に毛をもち、体は丸みを帯びる。胸部と腹部それぞれに鮮やかな黄色と黒の縞模様をもつ。腹部の後端は白色。北海道に分布するノサブマルハナバチに似る。

■生息環境：林縁、草地、農耕地等

■原産地：ヨーロッパ

■侵入経路：温室栽培の受粉目的で輸入された個体の逸出

■定着状況：未定着(隣県分布：兵庫、島根)

■影響・被害：在来マルハナバチ類との競合・駆逐。在来マルハナバチ類との交雑・不妊化。外来寄生虫の媒介。在来マルハナバチ類の減少による植物の受粉機会の減少。盗蜜による植物の種子生産阻害。

■備考：国リスト：産業管理外来種(No. 209)、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

ハイイロゴケグモ

Latrodectus geometricus

重点定着予防種
ヒメグモ科



環境省提供

■形態：体長は雄で6～8mm、雌で12～16mm程度。雄は雌に比べて小さく足が細長い。雌の腹部は大きな球形。体色には変異があり、白色から黒色のものがある。卵囊は薄黄色で表面に多数の突起物がある。この点で他のゴケグモ類の卵囊と区別できる。

■生息環境：都市部、住宅地、港湾等

■原産地：アフリカ等の熱帯～亜熱帯

■侵入経路：コンテナ等に付着して侵入

■定着状況：未定着(隣県分布：兵庫、岡山)

■影響・被害： α -ラトロトキシンという神経毒を持ち、人への咬傷被害のおそれがある(死亡例はない)。セアカゴケグモと比較して攻撃性は低いとされている。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 105)

■文献：①、②、③、④

セアカゴケグモ

Latrodectus hasseltii

重点対策種
ヒメグモ科



環境省提供

■形態：体長は雄で4～5mm、雌で7～10mm程度。雄は雌に比べて小さい。雄は腹部が細く頭部の触肢が丸く膨らんでいる。雌の腹部は大きな球形。体色は全体的に黒色で腹部の背面に特徴的な赤い縦条を持つ。卵囊は直径10～15mmで乳白色。

■生息環境：都市部、住宅地、港湾等

■原産地：オーストラリア

■侵入経路：建築資材等の物資に随伴して侵入

■定着状況：定着済み(西部地区)、定着不明(東部地区、中部地区)

■影響・被害： α -ラトロトキシンという神経毒を持ち、人への咬傷被害のおそれがある(日本での死亡例はないが原産国のオーストラリアでは死亡例がある)。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 106)、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

クロゴケグモ

Latrodectus mactans

重点定着予防種
ヒメグモ科

写真なし

■形態：体長は雄で3.5～6mm、雌で8～10mm程度。雄は雌に比べて小さい。雌の腹部は球形。腹部背面は黒色で腹部の腹面にはゴケグモ属に特徴的な赤い砂時計型の模様がある。また、尾端には赤斑がある。腹部には毛が多い。

■生息環境：都市部、住宅地、港湾等

■原産地：北米

■侵入経路：米軍物資の輸送に伴って侵入

■定着状況：未定着(隣県分布：なし)

■影響・被害：α-ラトロキシンという神経毒を持ち、人への咬傷被害のおそれがある(日本での死亡例はないが原産国のアメリカでは死亡例がある)。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 107)

■文献：②、④

ウチダザリガニ(タンカイザリガニを含む)

Pacifastacus leniusculus

重点定着予防種
ザリガニ科

別名：シグナルザリガニ、レイクロブスター



■形態：体長は15cm程度。体色は全体的に暗緑色でハサミの付け根に青白色の大きな斑点がある。額角は鋭く尖っている。雌雄ともに腹肢は5対。雌の第1腹肢は小さいか無い場合がある。雄の第1腹肢は生殖器になっている。

■生息環境：湖沼、河川等

■原産地：北米

■侵入経路：食用目的の放流

■定着状況：未定着(隣県分布：なし)

■影響・被害：在来水生生物の捕食。ニホンホンザリガニとの競合・駆逐。水生植物の切断等による環境の改変。水カビ病(ザリガニカビ病)の媒介。巣穴を掘ることによる河岸の浸食・土手等の決壊。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 109)、日本ワースト100

■文献：②、③、④

アメリカザリガニ

Procambarus clarkii

重点対策種

アメリカザリガニ科

別名：マッカチン、エビガニ



■形態：体長は12cm程度。体色は基本的に赤色～赤褐色(若齢個体の体色は淡褐色～黄褐色)。はさみには赤色のイボを多数もつ。雌雄ともに腹肢は5対。雌の第1腹肢は小さいか無い場合がある。雄の第1腹肢は生殖器になっている。

■生息環境：湿地、水田とその周辺等

■原産地：アメリカ南部

■侵入経路：ウシガエルの餌として輸入された個体の逸出・放流

■定着状況：定着済み(県内全域)

■影響・被害：在来水生生物の捕食。在来水生生物との競合・駆逐。水生植物の切断等による環境の改変。水カビ病(ザリガニカビ病)の媒介。巣穴を掘ることによる河岸の浸食・土手等の決壊。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 110)、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

カワヒバリガイ属

Limnoperna spp.

重点定着予防種
イガイ科



■形態：殻長は最大で4cm程度。殻は薄く、内側には真珠のような光沢がある。殻色は全体的に黄緑色がかった黒色。固着性の二枚貝で、足糸という糸状の物質を殻底から分泌して岩や壁に張り付く。外来種のコウロエンカワヒバリガイ(汽水性)に似る。

■生息環境：淡水域の岩場、水路の壁面等

■原産地：東アジア～東南アジア

■侵入経路：輸入シジミ類に混入して侵入

■定着状況：未定着(隣県分布：兵庫、岡山)

■影響・被害：水利施設や発電施設の導水路等に付着することによる通水障害。大量発生・大量死による水質悪化。植物プランクトン食の水生生物との競合。魚類に感染する腹口吸虫の媒介。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No.108)、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④